満点ゲットシリーズ

100

ちびまる子ちゃんの

暗誦百人一首

暗誦新聞入り

キャラクター原作／
さくらももこ
著／米川千嘉子
歌人

僧正遍照
天つ風
雲の
通ひ路
吹き閉ぢよ
をとめの姿
しばしとどめむ

ゆく
らぬこひの
みちかな

をとめのす
かたしはし
ととめむ

しつこころ
なくはなの
らるらむ

しのふるこ
とのよわり
もすする

集英社

暗誦新聞入り

満点ゲットシリーズ

ちびまる子ちゃんの

暗誦百人一首

ひさかたの
光のどけき
春の日に
しづ心なく
花の散るらむ

キャラクター原作／
さくらももこ
著／米川千嘉子
歌人

満点ゲットシリーズ

ちびまる子ちゃんの暗誦百人一首

2003年12月20日　第1刷発行
2009年2月7日　第17刷発行

●キャラクター原作／さくらももこ
●著者／米川千嘉子
●まんが原案／フォルスタッフ(今村恵子)
●ちびまる子ちゃんまんが／菊池朋子／倉沢美紀／相川 晴
●百人一首イラスト／山口太一
●伝記まんが／千明初美
●カバー・表紙イラスト／小泉晃子
●本文カット／堀井 徹
●編集協力／㈱童夢／稲垣 純
●カバー・表紙デザイン／ZOO(曽根陽子)
●本文デザイン／クリエイティブ・アート・テクニクス(市原真佐子)
●カバー裏デザイン／新藤恵璃子
●写植／昭和プライト写植部

発行人　太田富雄
発行所　株式会社　集英社
〒101-8050　東京都千代田区一ツ橋2丁目5番地10号
電話　東京 03-3230-6024(編集)
03-3230-6393(販売)
03-3230-6080(読者係)

印刷製本所　大日本印刷株式会社

造本には十分注意しておりますが、乱丁・落丁(本のページ順序の間違いや抜け落ち)の場合はお取り替え致します。購入された書店名を明記して小社読者係宛にお送り下さい。送料は小社負担でお取り替え致します。但し、古書店で購入されたものについてはお取り替え出来ません。
本書の一部または全部を無断で複写、複製することは、法律で認められた場合を除き、著作権の侵害となります。

©Sakura Production 2003
©Chikako Yonekawa 2003
©SHUEISHA 2003
Printed in Japan

ISBN4-08-314021-6 C8391

もくじ

1 秋の田の かりほの庵の 苫をあらみ わが衣手は 露にぬれつつ
2 春すぎて 夏来にけらし 白妙の 衣ほすてふ 天の香具山
3 あしびきの 山鳥の尾の しだり尾の 長ながし夜を ひとりかも寝む
4 田子の浦に うち出でて見れば 白妙の 富士の高嶺に 雪は降りつつ
5 奥山に 紅葉ふみわけ 鳴く鹿の 声きく時ぞ 秋はかなしき
6 かささぎの わたせる橋に おく霜の 白きを見れば 夜ぞふけにける
7 天の原 ふりさけ見れば 春日なる 三笠の山に 出でし月かも
8 わが庵は 都のたつみ しかぞすむ 世をうぢ山と 人はいふなり
9 花の色は うつりにけりな いたづらに わが身世にふる ながめせしまに
10 これやこの 行くも帰るも 別れては 知るも知らぬも 逢坂の関
11 わたの原 八十島かけて こぎ出でぬと 人には告げよ あまのつり舟
12 天つ風 雲の通ひ路 吹き閉ぢよ をとめの姿 しばしとどめむ

● 天智天皇……14
● 持統天皇……16
● 柿本人麻呂……18
● 山部赤人……20
● 猿丸大夫……21
● 中納言家持……22
● 安倍仲麻呂……24
● 喜撰法師……25
● 小野小町……26
● 蟬丸……28
● 参議篁……30
● 僧正遍昭……31

13 筑波嶺の 峰より落つる みなの川 恋ぞつもりて 淵となりぬる

14 陸奥の しのぶもぢずり たれゆゑに 乱れそめにし われならなくに

15 君がため 春の野に出でて 若菜つむ わが衣手に 雪は降りつつ

16 立ち別れ いなばの山の 峰に生ふる まつとし聞かば 今帰り来む

17 ちはやぶる 神代も聞かず 竜田川 からくれなゐに 水くくるとは

18 住の江の 岸による波 よるさへや 夢の通ひ路 人目よくらむ

19 難波潟 短き蘆の ふしの間も 逢はでこの世を すぐしてよとや

20 わびぬれば 今はたおなじ 難波なる みをつくしても 逢はむとぞ思ふ

21 今来むと いひしばかりに 長月の 有明の月を 待ち出でつるかな

22 吹くからに 秋の草木の しをるれば むべ山風を あらしといふらむ

23 月見れば ちぢにものこそ 悲しけれ わが身ひとつの 秋にはあらねど

24 このたびは 幣もとりあへず 手向山 紅葉の錦 神のまにまに

25 名にし負はば 逢坂山の さねかづら 人に知られで くるよしもがな

26 小倉山 峰のもみぢ葉 心あらば 今ひとたびの みゆき待たなむ

27 みかの原 わきて流るる いづみ川 いつ見きとてか 恋しかるらむ

● 陽成院……32
● 河原左大臣……38
● 光孝天皇……40
● 中納言行平……41
● 在原業平朝臣……42
● 藤原敏行朝臣……44
● 伊勢……46
● 元良親王……47
● 素性法師……48
● 文屋康秀……49
● 大江千里……50
● 菅家……52
● 三条右大臣……54
● 貞信公……55
● 中納言兼輔……56

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongboo

28 山里は 冬ぞ寂しさ まさりける 人目も草も かれぬと思へば

29 心あてに 折らばや折らむ 初霜の 置きまどはせる 白菊の花

30 有明の つれなく見えし 別れより 暁ばかり 憂きものはなし

31 朝ぼらけ 有明の月と 見るまでに 吉野の里に 降れる白雪

32 山川に 風のかけたる しがらみは 流れもあへぬ 紅葉なりけり

33 ひさかたの 光のどけき 春の日に しづ心なく 花の散るらむ

34 たれをかも 知る人にせむ 高砂の 松も昔の 友ならなくに

35 人はいさ 心も知らず ふるさとは 花ぞ昔の 香ににほひける

36 夏の夜は まだ宵ながら 明けぬるを 雲のいづこに 月宿るらむ

37 白露に 風の吹きしく 秋の野は つらぬきとめぬ 玉ぞ散りける

38 忘らるる 身をば思はず ちかひてし 人の命の 惜しくもあるかな

39 浅茅生の 小野の篠原 しのぶれど あまりてなどか 人の恋しき

40 しのぶれど 色に出でにけり わが恋は ものや思ふと 人の問ふまで

41 恋すてふ わが名はまだき 立ちにけり 人知れずこそ 思ひそめしか

42 契りきな かたみに袖を しぼりつつ 末の松山 波越さじとは

● 源宗于朝臣……57
● 凡河内躬恒……58
● 壬生忠岑……61
● 坂上是則……62
● 春道列樹……63
● 紀友則……64
● 藤原興風……66
● 紀貫之……67
● 清原深養父……68
● 文屋朝康……69
● 右近……70
● 参議等……71
● 平兼盛……72
● 壬生忠見……74
● 清原元輔……75

43 逢ひ見ての のちの心に くらぶれば 昔はものを 思はざりけり

44 逢ふことの 絶えてしなくは なかなかに 人をも身をも 恨みざらまし

45 あはれとも いふべき人は 思ほえで 身のいたづらに なりぬべきかな

46 由良のとを 渡る舟人 かぢを絶え 行く方も知らぬ 恋の道かな

47 八重むぐら 茂れる宿の 寂しきに 人こそ見えね 秋は来にけり

48 風をいたみ 岩うつ波の おのれのみ くだけてものを 思ふころかな

49 みかきもり 衛士のたく火の 夜は燃え 昼は消えつつ ものをこそ思へ

50 君がため 惜しからざりし 命さへ 長くもがなと 思ひけるかな

51 かくとだに えやはいぶきの さしも草 さしも知らじな 燃ゆる思ひを

52 明けぬれば 暮るるものとは 知りながら なほ恨めしき 朝ぼらけかな

53 嘆きつつ ひとり寝る夜の 明くる間は いかに久しき ものとかは知る

54 忘れじの 行く末までは かたければ 今日をかぎりの 命ともがな

55 滝の音は 絶えて久しく なりぬれど 名こそ流れて なほ聞こえけれ

● 権中納言敦忠……80
● 中納言朝忠……82
● 謙徳公……83
● 曾禰好忠……84
● 恵慶法師……85
● 源重之……86
● 大中臣能宣朝臣……87
● 藤原義孝……88
● 藤原実方朝臣……89
● 藤原道信朝臣……90
● 右大将道綱母……91
● 儀同三司母……92
● 大納言公任……94

昔の人の名前は
かっこいいのお…

56 あらざらむ この世のほかの 思ひ出に 今ひとたびの 逢ふこともがな
57 めぐり逢ひて 見しやそれとも わかぬ間に 雲隠れにし 夜半の月かな
58 有馬山 猪名の笹原 風吹けば いでそよ人を 忘れやはする
59 やすらはで 寝なましものを さ夜ふけて かたぶくまでの 月を見しかな
60 大江山 いく野の道の 遠ければ まだふみも見ず 天の橋立
61 いにしへの 奈良の都の 八重桜 けふ九重に にほひぬるかな
62 夜をこめて 鳥のそら音は はかるとも よに逢坂の 関は許さじ
63 今はただ 思ひ絶えなむ とばかりを 人づてならで いふよしもがな
64 朝ぼらけ 宇治の川霧 たえだえに あらはれわたる 瀬々の網代木
65 恨みわび ほさぬ袖だに あるものを 恋に朽ちなむ 名こそ惜しけれ
66 もろともに あはれと思へ 山桜 花よりほかに 知る人もなし
67 春の夜の 夢ばかりなる 手枕に かひなく立たむ 名こそ惜しけれ
68 心にも あらで憂き世に ながらへば 恋しかるべき 夜半の月かな
69 嵐吹く 三室の山の もみぢ葉は 竜田の川の 錦なりけり
70 寂しさに 宿を立ち出でて ながむれば いづこも同じ 秋の夕暮れ

● 和泉式部……95
● 紫式部……105
● 大弐三位……106
● 赤染衛門……107
● 小式部内侍……108
● 伊勢大輔……111
● 清少納言……112
● 左京大夫道雅……126
● 権中納言定頼……127
● 相模……128
● 大僧正行尊……129
● 周防内侍……130
● 三条院……131
● 能因法師……132
● 良暹法師……134

71 夕されば　門田の稲葉　おとづれて　蘆のまろやに　秋風ぞ吹く

72 音に聞く　高師の浜の　あだ波は　かけじや袖の　ぬれもこそすれ

73 高砂の　尾の上の桜　咲きにけり　外山の霞　立たずもあらなむ

74 憂かりける　人を初瀬の　山おろしよ　激しかれとは　祈らぬものを

75 契りおきし　させもが露を　命にて　あはれ今年の　秋もいぬめり

76 わたの原　漕ぎ出でてみれば　ひさかたの　雲居にまがふ　沖つ白波

77 瀬をはやみ　岩にせかるる　滝川の　われても末に　あはむとぞ思ふ

78 淡路島　通ふ千鳥の　鳴く声に　幾夜寝ざめぬ　須磨の関守

79 秋風に　たなびく雲の　絶え間より　もれ出づる月の　影のさやけさ

80 長からむ　心も知らず　黒髪の　乱れて今朝は　ものをこそ思へ

81 ほととぎす　鳴きつる方を　ながむれば　ただ有明の　月ぞ残れる

82 思ひわび　さても命は　あるものを　憂きにたへぬは　涙なりけり

83 世の中よ　道こそなけれ　思ひ入る　山の奥にも　鹿ぞ鳴くなる

84 ながらへば　またこのごろや　しのばれむ　憂しと見し世ぞ　今は恋しき

85 夜もすがら　もの思ふころは　明けやらぬ　閨のひまさへ　つれなかりけり

● 大納言経信……136
● 祐子内親王家紀伊……137
● 権中納言匡房……138
● 源俊頼朝臣……139
● 藤原基俊……140
● 法性寺入道前関白太政大臣……141
● 崇徳院……146
● 源兼昌……148
● 左京大夫顕輔……149
● 待賢門院堀河……150
● 後徳大寺左大臣……151
● 道因法師……152
● 皇太后宮大夫俊成……153
● 藤原清輔朝臣……154
● 俊恵法師……158

86 嘆けとて 月やはものを 思はする かこち顔なる わが涙かな

87 村雨の 露もまだひぬ まきの葉に 霧立ちのぼる 秋の夕暮れ

88 難波江の 蘆のかりねの ひとよゆゑ みをつくしてや 恋ひわたるべき

89 玉の緒よ 絶えなば絶えね ながらへば 忍ぶることの 弱りもぞする

90 見せばやな 雄島のあまの 袖だにも ぬれにぞぬれし 色はかはらず

91 きりぎりす 鳴くや霜夜の さむしろに 衣かたしき ひとりかも寝む

92 わが袖は 潮干にみえぬ 沖の石の 人こそ知らね かわく間もなし

93 世の中は 常にもがもな 渚こぐ あまの小舟の 綱手かなしも

94 み吉野の 山の秋風 さ夜ふけて ふるさと寒く 衣打つなり

95 おほけなく 憂き世の民に おほふかな わが立つ杣に 墨染めの袖

96 花さそふ 嵐の庭の 雪ならで ふりゆくものは わが身なりけり

97 来ぬ人を まつほの浦の 夕なぎに 焼くや藻塩の 身もこがれつつ

98 風そよぐ ならの小川の 夕暮れは みそぎぞ夏の しるしなりける

99 人もをし 人も恨めし あぢきなく 世を思ふゆゑに もの思ふ身は

100 ももしきや 古き軒端の しのぶにも なほあまりある 昔なりけり

● 西行法師……159
● 寂蓮法師……168
● 皇嘉門院別当……169
● 式子内親王……170
● 殷富門院大輔……172
● 後京極摂政前太政大臣……173
● 二条院讃岐……174
● 鎌倉右大臣……176
● 参議雅経……178
● 前大僧正慈円……179
● 入道前太政大臣……180
● 権中納言定家……182
● 従二位家隆……192
● 後鳥羽院……193
● 順徳院……202

◇伝記まんが　千明 初美
和泉式部……96
清少納言と紫式部……114
西行法師……160
藤原定家……184
後鳥羽院……194
◇四谷大塚が選んだ暗誦したい十首……カバー裏
◇暗記暗誦出来れば人気者。　永 六輔……4
◇百人一首の歴史……60
◇暗誦新聞・1　学校探訪編……33
◇暗誦新聞・2　競技かるた編……155
◇百人一首ものしり事典——百人一首の言葉……76
◇百人一首ものしり事典——平安貴族の暮らし……142
◇百人一首Q&A——月に想いを……104
◇百人一首Q&A——昔の旅……110
◇あとがき……204

平安時代に
メガネはない——

本文を読む前に

◇和歌のページの冒頭にある数字は、百人一首の歌番号です。

◇和歌のページの作者名の上にある●は男性、●は女性をあらわしています。作者名の横には、西暦でその作者の生まれた年と亡くなった年を記してありますが、不明なものは「?」あるいは「生没年未詳」としました。

◇和歌には昔の表記が使われていますので、この本では暗誦するために現代の読み方にあわせたふりがなをふりました。

◇和歌のページと伝記まんがのページの中で、※がついている言葉は、欄外に説明があります。伝記まんがの中で◎がついている和歌は、その意味を欄外で解説しています。

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongboo

暗誦新聞入り

満点ゲットシリーズ

ちびまる子ちゃんの

暗誦百人一首

ひさかたの
光のどけき
春の日に
しづ心なく
花の散るらむ

キャラクター原作／
さくらももこ
著／米川千嘉子
歌人

この本に出てくる人たち

お田さん
まる子の世話を焼く。

父ヒロシ
のんき者。

お姉ちゃん
まる子に迷惑をかけられることが多い。

おばあちゃん
友蔵の妻。

おじいちゃん
（友蔵）
まる子のいちばんの味方で仲良し。

たまちゃん
まる子の親友。

まる子
おっちょこちょいでなまけ者。

フー太郎
「フー」というのが口ぐせ。

花輪クン
お金持ちのおぼっちゃま。

丸尾君
「ズバリ」が口ぐせ。

暗い二人組。

藤木くん

永沢くん

山田
クラスの困った勇子。

野口さん
お笑い好きな暗い少女。

杉山くん
大野くん
二人は親友。
小杉くん
クラスの男子。
長山くん
とてもやさしい男の子。
城ケ崎さん
美人なので
みぎわさんに
意地悪されてる。
冬田さん
大野くんを
好き。
かよちゃん
杉山くんを
好き。
笹山さん
藤木に
好かれている。
みぎわさん
花輪クンにお熱。
プサティー
南の島の友だち。
川田さん
佐々木のじいさんの
友だち。
山根くん
胃腸が
弱い。
はまじ
クラスの男子。
ヒデじい
花輪クンちの
運転手。
戸川先生
クラスの担任。
やさしくて人気者。
佐々木のじいさん
三十年間町に
木を植えている。
たまちゃんの
お父さん
中野さん
おじいちゃんの
友だち。
はずかしがり屋。

暗記暗誦出来れば人気者。

永六輔

ボクの名前はエイ・ロクスケ。
キミの名前は？（答えて下さい）
じゃ　クラスメートの名前を全部言って下さい。
……先生なら簡単に言えるでしょう。
次にキミの住所と電話番号を言って下さい。
次にクラスメートの住所と電話番号。
次にキミの親戚の住所と電話番号。
もし言えたとしたら　暗記しているからです。
「百人一首」のかるた取りを見たことがありますか。
「いろはがるた」をやったことがありますか。
強い人は暗記しているからです。
ボクはお寺で育ちましたから　子供の時に
暗記したお経の暗誦をしてしまいました。
「キーミョウ　ムウリョウ　ジュウニョウライ」
わけもわからず暗誦して　大人になった時にやっと文字と
意味がわかって　とても楽しい思いをしました。

テレビのセリフも暗記暗誦…

勿論　暗記しなくても便利な電子文具があって
正確におぼえてくれます。
でも　それは機械がおぼえたので
キミがおぼえたわけではありません。
もう一度　話を戻して　キミが友だちや親戚の名前　住所
電話番号を全部暗記して　暗誦出来たら
どんなに便利で安心かわかるでしょう。
ついでに　みんなの誕生日を暗記してしまう。
勿論　学校の勉強も　宿題も暗記してしまうと
キミはもう　人気者です。
こうした　ものをおぼえる力を　キミたちのおじいちゃん
おばあちゃんは「百人一首」で身につけたのです。
遊びながら　学んだのです。
キミは　遊ぶだけが好きな子かも。
でも　遊びながら学んだことって
大人になっても　忘れないものです。
エイ・ロクスケが保証します。

永　六輔

1933年、東京・浅草にあるお寺の住職の次男として生まれる。中学生のころNHKラジオコントの台本の投稿を始め、早稲田大学在学中より、放送作家、作詞家（「上を向いて歩こう」など）、司会者、語り手、歌手……と幅広いジャンルで活躍。

TBSラジオの「誰かとどこかで」は1967年から続いている長寿番組。著書は「大往生」（岩波書店）、『無名人語録』（小学館）など多数。

1992年にNHK放送文化賞、1994年に都民文化栄誉章。

もくじ

1 秋の田の かりほの庵の 苫をあらみ わが衣手は 露にぬれつつ

2 春すぎて 夏来にけらし 白妙の 衣ほすてふ 天の香具山

3 あしびきの 山鳥の尾の しだり尾の 長ながし夜を ひとりかも寝む

4 田子の浦に うち出でて見れば 白妙の 富士の高嶺に 雪は降りつつ

5 奥山に 紅葉ふみわけ 鳴く鹿の 声きく時ぞ 秋はかなしき

6 かささぎの わたせる橋に おく霜の 白きを見れば 夜ぞふけにける

7 天の原 ふりさけ見れば 春日なる 三笠の山に 出でし月かも

8 わが庵は 都のたつみ しかぞすむ 世をうぢ山と 人はいふなり

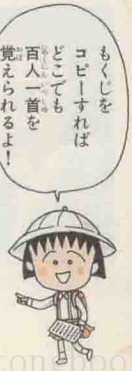
9 花の色は うつりにけりな いたづらに わが身世にふる ながめせしまに

10 これやこの 行くも帰るも 別れては 知るも知らぬも 逢坂の関

11 わたの原 八十島かけて こぎ出でぬと 人には告げよ あまのつり舟

12 天つ風 雲の通ひ路 吹き閉ぢよ をとめの姿 しばしとどめむ

● 天智天皇……14
● 持統天皇……16
● 柿本人麻呂……18
● 山部赤人……20
● 猿丸大夫……21
● 中納言家持……22
● 安倍仲麻呂……24
● 喜撰法師……25
● 小野小町……26
● 蟬丸……28
● 参議篁……30
● 僧正遍昭……31



此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook